

令和 元年 6 月 18 日現在

機関番号：13401

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2016～2018

課題番号：15KK0046

研究課題名（和文）ノントキシック版画技法の普及に向けた調査研究（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Survey Research on the Spread of Nontoxic Printmaking Techniques(Fostering Joint International Research)

研究代表者

湊 七雄 (Minato, Shichio)

福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門（教員養成）・准教授

研究者番号：80436849

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,300,000円

渡航期間： 12ヶ月

研究成果の概要（和文）：身体や環境に有害な材料・素材の使用を控えた「ノントキシック版画技法」は、芸術的表現の面でも伝統版画技法の代替に留まらない「次世代型版画技法」としての発展性がある。本研究では、国際共同研究チームを編成した上で、ノントキシック版画技法の研究や普及に関わる活動について国際的な調査を行い、各国の現状と課題を明らかにし、この技法の展開に求められる普及システムの構築と指導法の開発を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ノントキシック版画技法の有用性を広く紹介し、普及させることで、より安全な制作環境の整備が実現し、中・長期的には版画人口の向上、版画芸術の振興を見込める。わが国の学校教育現場は制作環境の安全対策に大きな遅れが認められるが、研究成果を移転することで教育環境の改善に繋がる。国際共同研究により人的交流や国内外の研究機関との交流に活発化し、それぞれの知見や経験が共有される。

研究成果の概要（英文）："Non-toxic printing techniques" refrain from using materials and substances that are harmful. These techniques will not only replace traditional printing techniques, but harbor tremendous potential as "next-generation printing techniques." In this research, an international joint research team was formed to conduct a transnational survey on activities related to the research and propagation of non-toxic printing techniques. We aimed to illuminate the current situation and issues in each country, and achieved significant results in regard to the construction of the distribution channels required for the propagation of these techniques as well as the development of the relevant pedagogy. In addition, through the establishment of a network of print artists, researchers, and trainers in Japan and abroad, across academia and the private sector, we have consolidated results of separate research projects to build a model for a system through which our findings and expertise can be shared.

研究分野：美術

キーワード：ノントキシック版画 国際共同研究 普及・導入支援システム ワークショップ開発 技法研究

1. 研究開始当初の背景

身体や環境に有害な材料・素材の使用を控えた「ノントキシック版画技法」には、芸術的表現の面でも伝統版画技法の代替に留まらない「次世代型版画技法」としての発展性がある。しかし、わが国はもとより、この分野をリードする欧米諸国においても、これまで技法研究に終始し、普及や導入支援の方法については十分に検討されてこなかった。そのため認知度や普及率は極めて低く、多くの国で安全な制作環境が整っていない。一方、毒性の強い画材への規制や制作環境の安全規制の厳格化は過去 10 数年で急速に進み、それらの規制に対応出来ず版画工房を閉鎖する事例も報告されており、版画人口減少や版画芸術停滞への懸念が生じていた。

2. 研究の目的

本研究は、研究代表者が有する人材育成および教材の開発の実績と Marnix EVERAERT 教授(ゲント美術アカデミー)の研究グループが有する技法開発実績をもとに国際共同研究チームを編成した上で、ノントキシック版画技法の研究や普及に関わる活動について国際的な調査を行い、各国の現状と課題を明らかにし、この技法の展開に求められる普及システムの構築と指導法の開発を行うことを目的としている。

基課題(課題番号 25370165)では一部の国の調査に留まっていたが、本研究でその対象範囲を格段に広げたグローバルな観点でのデータ構築が実現し、当該研究領域に大きな進展をもたらすことが可能となる。

具体的には、ノントキシック版画技法の、国際的な普及・導入支援システムに関する実態調査を実施し、現状と課題を整理する。併せて、ノントキシック技法の表現に関する調査と資料収集を行い、この技法の特性と可能性を広く社会に示すための基礎データを作成する。また、指導者向け技法導入支援法の研究開発を行い、汎用性の高い指導法の開発を行う。

3. 研究の方法

(1)研究項目 については、各国の版画専門教育機関を対象としたアンケート調査や実地訪問調査を行う。集めた資料や得られた結果について研究協力者らと共同で分析し、国や地域の現状と課題を明らかにしたうえで、データベースを作成した。

(2)研究項目 については、3カ国の版画専門教育機関と共同でデータ収集・技法分析を行った。共同研究にはノントキシック化していない教育研究機関を含め、広い観点より検討を加えることとする。また、今後のノントキシック版画技法研究の展開に求められるネットワークづくりについても検討した。

2018年度は、国際シンポジウムを企画・開催をとおして、最新の研究成果の共有方法について検討した。

(3)研究項目 については、研究代表者と研究協力者との共同研究にて実施する。主にゲント美術アカデミーで実践を重ね、それぞれの知見を集約し、汎用性の高い指導法を開発し実践につなげる。

4. 研究成果

(1)国際的な普及・導入支援システムに関する実態調査

2017年度(12ヶ月)ベルギーのゲント美術アカデミーに所属し、Marnix EVERAERT 教授の研究グループとの共同研究に取り組んだ。ノントキシック版画の分野において、ゲント美術アカデミーは世界的に広く知られる研究機関の一つである。当該研究分野をリードする EVERAERT 教授の革新的なメソッドにより指導者を多数輩出している。研究代表者は当該アカデミーの卒業生で、実質的に古巣に戻る形だったこともあり、国際共同研究そのものはスムーズに開始できた。まとまった時間、調査研究に集中できたことで、EU 諸国と北アメリカを中心に、データ収集をし、それぞれの国や地域の特性や問題を明らかにできた。

(2)ノントキシック技法の表現に関する調査と資料収集

2018年度:「腐食銅版画技法」に関する資料を中心に調査・収集した。特にノントキシック技法の「ソフトグランド」と「アクアチント」では伝統技法に勝る豊かな表現が得られることが明らかになった。ソフトグランドは、大豆ワックスと製版用インクを加熱しながら練り合わせ自作できる。「アクアチント」は、銅版にアクリル系樹脂をエアブラシでスプレーする手法である。アクアチント用ストップアウトニスレシピに改良を重ね、極めて良好な結果が得られた。これらの作品は、従来の松ヤニでは得られなかった精緻なトーンの表現が得られることが確認できた。

その他の版種についても、データ収集し500点を超える作品画像をアーカイブした。

(3)ワークショップの開発

汎用性の高い教材と指導法の開発の他に、得られた研究成果の共有システムやコンサルティングのあり方についても検討した。

2017年度は、研究代表者と共同研究者3名が分担し、ゲント美術アカデミーの学生を対象と

したワークショップ(1回約3時間)を年間50回行った。月1回(第1週目木曜日)の共同研究者ミーティング(メンバー4名)でそれぞれのワークショップを立案・実施・分析するという方針で進めた。開発したワークショップには、腐食銅版画、水性凹版画、簡易メゾチント、リトグラフ、フォトポリマーインタグリオ、シルクスクリーン、水性木版画、油性木版画、レリーフプリント、写真製版、版画インクの組成、版画史、作品展示法、バックング(裏打ち)技法、コラグラフなどが含まれる。あわせて、世界各地で入手容易な素材・材料の調査開発も行った。

研究代表者は、主に有機溶剤を使用しないノントキシックの腐食銅版画技法をステップ・バイ・ステップで学べるワークショップの研究開発を担った。一連のワークショップは、銅版画の基幹をなす3つの技法(ハードグラウンド、ソフトグラウンド、アクアチント)を用いた作品の制作手順を習得できる内容とした。講義・実習を通し、伝統的技法の代替にとどまらない表現の多様さを体験できるよう工夫した。

(4)指導者向け技法導入支援

開発したワークショップは、東京造形大学の協力のもと、「ノントキシック銅版画技法 ワークショップ in 東京」(版画学会主催)として実践した。版画指導者を主な対象とした2日間のワークショップで、ノントキシックのソフトグラウンド、ハードグラウンド、アクアチントを習得できる構成とした。(湊七雄、ノントキシック銅版画ワークショップ in 東京(トピックス)、版画学会学会誌 47号、2018)

(5)研究成果の共有・ノウハウの効果的活用

大学・民間を問わず広いフィールドの版画専門家との関わりが生まれ、研究者ネットワークが構築されたことで、別個の研究成果が統合され、知見やノウハウを共有できるシステムのモデルが完成した。

(6)シンポジウム

ノントキシック版画技法研究をリードする国内外の研究者・アーティストらを招き「金沢21世紀美術館」と「金沢湯涌創作の森」の2会場にて国際シンポジウムを企画実施した。

本シンポジウムは、講演会、パネルディスカッション、デモンストレーションの三部構成とし、理論面と技法面の両方をカバーする内容とした。本シンポジウムは世界的にも珍しい試みで、日本での開催は初めての試みであった。

日本、中国、シンガポール、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ブラジルから42人(内訳:海外11人、石川県外22人、石川県内9人)の参加を得た。使用言語は英語で、日本語通訳をつけた。

<実施概要>

名称: ノントキシック版画国際シンポジウム 2019 金沢

会期: 2019年3月8日(金) - 10日(日) 3日間

会場: 金沢21世紀美術館、金沢湯涌創作の森

シンポジスト: Marnix EVERAERT(Gent 美術アカデミー・教授)、武蔵 篤彦(京都精華大学・教授)、Friedhard KIEKEBEN(コロンビアカレッジシカゴ・教授)、Liz CHALFIN(zea mays printmaking・代表)、土居 誠(北山銅版画室・代表)、湊 七雄(福井大学・准教授)

(7)シンポジウム(基調講演)

・コロンビア大学シカゴ校のKIEKEBEN教授は、ノントキシック版画研究を黎明期よりリードしてきた第一人者である。基調講演「Nature & Chemistry, Tradition & Innovation, Wellbeing & Sickness in Printmaking and Painting」では、ノントキシック版画研究の歴史に触れながら、本人が研究開発に携わった「エジンバラエッチ」や「サリン・サルフェート」等の安全な腐食メソッドの他、アクリル樹脂メディウムを使用した防食メソッド、そして、光を照射することで物理的・化学的性質の変化を示すフォトポリマー(感光性樹脂)を製版に転用した技法などを紹介した。

・Liz CHALFIN氏は、アメリカ最初の本格的な完全ノントキシックの版画工房「zea mays printmaking(ZMP)」(2000年-)の創設者・代表者である。ZMPは、創設以後成長を続け、現在に至っては、100人以上のアーティストメンバーを抱える世界最大規模のノントキシック版画工房として知られる。ZMPでは、版画ワークショップの他に、アーティストインレジデンス、インターンシッププログラム、メンターシップ、展覧会の企画運営の他、この分野をリードする研究プログラムを遂行している。

基調講演「Innovation in Community」では、上述の多彩な取り組みの実際について、スライド資料をもとに紹介した。重点的に取り組んでいる「国際的な広がりを持つコミュニティーベースの持続」と「研究プログラムの展開」については特に詳細に報告した。

・本研究の共同研究者であるMarnix Everaert教授は、過去19年に渡るノントキシック版画研究の成果と、Gent美術アカデミーのノントキシック化のプロセスについて報告した。

ノントキシックの必要性と有用性を認めながらも、多くの教育機関や版画工房、個人の版画家

らがノントキシック化を拒みつづける背景についても検討した。

・30年以上にわたり京都精華大学にて教鞭をとる武蔵篤彦教授は、2005年以降、日本におけるフォトポリマー版画の第一人者として、技法研究と作品制作に精力的に取り組んだ。基調講演では、長年にわたる技法研究の成果を報告した。

・土居誠氏は、日本で初の本格的なノントキシック版画工房「北山銅版画室」の創立者である。銅版画指導者・アーティストとして幅広い活動を展開している。1997年に創設された、北山銅版画室は、2004年にスタジオを伝統的な技法からノントキシックへと方向転換し、以降オンラインショップも併設し、ノントキシック版画の用具・材料の輸入販売をつづけている。北山銅版画室は、現代版画の研究所として重要な役割を担っており、その研究成果はスタジオのウェブサイトを通じて世界に発信しつづけている。基調講演では、これまでの成果を報告するとともに、日本におけるノントキシック版画の教育機関の現状と課題について検討した。

・研究代表者である湊七雄は、これまでの研究実績報告とあわせ、ノントキシック版画教育の現状と課題について報告した。

(8)シンポジウム(パネルディスカッション)

2019年3月9日午前、金沢21世紀美術館レクチャーホールにおいて開催した。基調講演の会場にて参加者に配布し、講演終了後に回収した「質問シート」をもとに、パネルディスカッションを進行した。

例えば、「『non-toxic』や『safer printmaking』という呼称を改める必要性はないのか」や「ノントキシック版画は安全とされているが、妊婦であっても本当に安心して制作できるのか?それをどのように証明できるのか」などといった質問に、シンポジストが各々の見解を述べ、意見交換するというスタイルをとった。

(9)シンポジウム(デモンストレーション)

2019年3月9日午後、3月10日全日の1日半、金沢湯涌創作の森を会場に、ノントキシック版画技法のデモンストレーションを開催した。Marnix EVERAERT(Gent 美術アカデミー・教授)、武蔵 篤彦(京都精華大学・教授)、Friedhard KIEKEBEN(コロンビアカレッジシカゴ・教授)、Liz CHALFIN(zea mays printmaking・代表)が講師を務めた。「暗室不要のフォトエッチング」(CHALFIN)、「塩水サルフェートエッチング」(KIEKEBEN)、「感光性樹脂板フォトポリマー版画」(武蔵)、「ノントキシック銅版画の基本技術」(EVERAERT)などを行った。

(10)シンポジウム(展覧会)

2019年3月8日から17日の10日間にわたり、金沢湯涌創作の森のギャラリースペースにて、ノントキシック版画技法にて制作された作品の展覧会を開催した。ノントキシック技法の幅広さと可能性を広く紹介することを目的に、6名のシンポジストらの作品と指導学生らの参考作品を合わせた60点を展示した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者は下線)

[雑誌論文](計 2 件)

湊七雄、ノントキシック銅版画ワークショップ in 東京(トピックス)、版画学会学会誌 47 号、2018、査読有

湊七雄、ノントキシック版画技法の普及に向けたワークショップの開発、版画学会学会誌 第 45 号、2016、査読有

[学会発表](計 3 件)

湊七雄(2019.3.8)、ノントキシック版画国際シンポジウム 2019 金沢、金沢 21 世紀美術館レクチャーホール(石川県金沢市)、招待講演

湊七雄(2017.5.6)、ノントキシック版画による作品制作、DrukDrukDruk(Kunstwerkt 主催)、Gent 美術アカデミー講堂(ベルギー・Gent 市)、招待講演

湊七雄(2016.12.3)、ノントキシック版画技法の普及に向けたワークショップの開発、版画学会研究発表、町田市立国際版画美術館講堂(東京都町田市)、招待講演

[図書](計 件)

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<https://www.shichiominato.com/>

<https://saferprintmaking.wixsite.com/kanazawa2019>

6. 研究組織

研究協力者

〔主たる渡航先の主たる海外共同研究者〕

研究協力者氏名：マルニックス・エヴェラールト

ローマ字氏名：Marnix Everaert

所属研究機関名： Gent 美術アカデミー

部局名：版画専攻

職名：教授

〔その他の研究協力者〕

研究協力者氏名：ウラジミール・イヴァネアヌ

ローマ字氏名：Vladimir IVANEANU

所属研究機関名： Gent 美術アカデミー

部局名：版画専攻

職名：講師

研究協力者氏名：リザベス・ファン・ランケル

ローマ字氏名：Liesbeth VAN LANCKER

所属研究機関名： Gent 美術アカデミー

部局名：版画専攻

職名：講師

研究協力者氏名：フリードハード・キケベン

ローマ字氏名：Friedhard KIEKEBEN

所属研究機関名：コロンビア・カレッジ・シカゴ

部局名：アートアンドデザイン学科

職名：教授

研究協力者氏名：リズ・シャルフィン

ローマ字氏名：Liz CHALFIN

所属研究機関名：zea mays printmaking

職名：代表・ディレクター

研究協力者氏名：武蔵篤彦

ローマ字氏名：Atsuhiko MUSASHI

所属研究機関名：京都精華大学

部局名：芸術学部 造形学科 版画専攻

職名：教授

研究協力者氏名：土居 誠

ローマ字氏名：Makoto DOI

所属研究機関名：北山銅版画室

職名：代表

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。